

令和5年度

第2次さっぽろ都市農業ビジョン推進懇話会

会 議 録

日 時：令和6年（2024年）2月19日（月）

会 場：札幌市農業支援センター2階会議室

札幌市経済観光局農政部

開 催 概 要

●日時 令和6年（2024年）2月19日（月）14時～16時

●場所 札幌市農業支援センター2階会議室

●次第

1. 開 会

2. 議 事

(1) 次期ビジョン策定に係る想定スケジュールについて

- ・策定年の前倒しについて
- ・質疑・意見交換

(2) 令和5年度の進捗状況について

- ・基本理念及び基本的な方向
- ・アクションプラン
- ・質疑・意見交換

(3) 情報提供

- ・農業イベント参加者（たまねぎフェア2023）のアンケート結果について
- ・「さとらんど」の再整備について
- ・質疑・意見交換

(4) その他

- ・懇話会委員の任期について

3. 閉 会

〔配布資料〕

資料1 第2次札幌都市農業ビジョン推進懇話会委員名簿（第3期）

資料2 第2次札幌都市農業ビジョン推進懇話会設置要綱

資料3 第3次さっぽろ都市農業ビジョン策定に係る想定スケジュール

資料4 令和5年度 さっぽろ都市農業ビジョン進捗状況調書（①～③）

●出席者

委 員：宮入 隆ほか7名（配布資料1参照）

札幌市：石橋 英二（経済観光局農政部長）

高本 俊（経済観光局農政部農政課長）

佐々木 久美（経済観光局農政部農業委員会担当課長）

高栗 仁子（経済観光局農政部農業支援センター所長）

議 事 録

1. 開 会

●札幌市 定刻となりましたので、始めさせていただきます。ただ今より令和5年度第2次さっぽろ都市農業ビジョン推進懇話会を開催いたします。

本日の司会・進行を勤めさせていただきます。よろしくお願いいたします。

それでは、主催者を代表して農政部長よりご挨拶申し上げます。

●札幌市 令和5年度第2次さっぽろ都市農業ビジョン推進懇話会の開催にあたりまして、一言ご挨拶を申し上げます。本日はお忙しいところ、また、足元が悪い中お集まりいただきまして、誠に有難うございます。

日頃より、それぞれのお立場で本市の農業行政にご尽力いただきまして、この場をお借りしまして厚く御礼申し上げます。

札幌市の農業の現状ですけれども、皆様ご存じのとおり、2020年農林業センサスの結果でも依然として農家戸数の減少ですとか農家の高齢化、また、経営耕地面積の減少が進んでおりまして、また、ここ数年の感染症の拡大ですとか世界的な食料安全保障に対する意識が高まっているという状況もございます。

札幌市におきましても、今後も新規就農者の育成ですとか企業の農業参入の推進、そういった新たな担い手の確保に取り組むとともに、既存の農家の皆様に対してもしっかりと支援をしていかなければならないと考えております。

一方、消費者の方からは、農産物に対する安全・安心への関心ですとか農業体験、農に係る活動、そういったニーズが高まっている状況もございます。

この農業ビジョンは、令和3年度から後期の5年間がスタートしております。今年度で半分を経過したところになります。中間評価で浮き彫りになりました課題と向き合いまして、次のビジョン策定を見据えながら引き続き事業に取り組んで参りたいと考えております。

本日、前半は次のビジョン策定のスケジュールの共有ですとか、令和5年度に実施しました施策による成果の達成状況等について、ご報告させていただきます。また後半は、さとらんどで実施しました代表的なイベントに対する参加者のアンケート調査結果ですとか、さとらんどでの再整備に係る情報提供をさせていただきたいと考えております。

皆様には、それぞれのお立場からご忌憚のないご意見を頂戴できればと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

●札幌市 では、ここからは座って説明させていただきます。はじめに、出席者のご紹介をさせていただきます。

資料1の懇話会委員名簿をご覧ください。本日は8名の方にご参加していただいております。

今年度、委員のうち1名の方が交代されておりますので、簡単ではございますが、名簿順に委員をご紹介します。

- ①北海学園大学経済学部地域経済学科教授の宮入委員です。
- ②札幌保健医療大学保健医療学部栄養学科教授の百々瀬委員です。
- ③続きまして、今回、新任となります札幌市農業委員会会長の熊木委員ですが、現在、入院治療中とのことで本日は欠席でございます。
- ④続きまして、札幌市農業協同組合代表理事組合長の軽部委員です。
- ⑤サツラク農業協同組合代表理事組合長の長濱委員です。
- ⑥札幌市農業協同組合青年部長の大畑委員です。
- ⑦札幌市農業協同組合女性部長の菅原委員です。
- ⑧公益社団法人札幌消費者協会の行方（なめかた）委員です。
- ⑨一般社団法人日本野菜ソムリエ協会認定の野菜ソムリエ上級プロの吉川（きっかわ）委員です。

本日は、どうぞよろしくお願いいたします。

会を始める前に、皆様にお願いがございます。

本日の議事につきましては、会議録を札幌市役所公式ホームページで公開する都合上、録音すること、内部の報告用に写真を撮りますことをご了承ください。

なお、会議録は発言された方のお名前は公表いたしませんのでよろしくお願いいたします。

次に、「次第」をご覧ください。

本日の進め方ですが、はじめに2番「議事の(1)」で、事務局から次期ビジョン策定に係るスケジュールについて説明させていただいた後、質疑・意見交換を行い、引き続き「議事の(2)」令和5年度の進捗状況について説明させていただき、質疑・意見交換を行います。

その後、10分程度の休憩をとりまして、後半は「議事の(3)」で各種情報提供をさせていただき、質疑・意見交換を行います。

よろしくお願いいたします。

2. 議 事

●札幌市 それでは、議事の(1)「次期ビジョン策定に係るスケジュール」について説明いたします。

現在の農業ビジョンは、平成28年から10年間の計画となっております。令和2年度に前期の5年間の終了し、皆様にご意見をいただきまして、令和3年11月に中間評価報

告書としてまとめたところです。

資料3の1ページ目「【議題1】第3次さっぽろ都市農業ビジョンの策定」をご覧ください。A3の横版になります。

令和3年度から後期の取組がスタートしておりますが、次のビジョンである第3次ビジョン（仮称：さっぽろ都市農業振興基本計画）策定の想定スケジュールについてご説明いたします。

現ビジョンは令和7年度までの計画で、本来であれば次期ビジョンは令和8年度からの計画となりますが、昨年度の懇話会では、「1年延長することにより明らかとなる「食料・農業・農村基本計画」の見直し結果や、2025年農林業センサスの結果を踏まえビジョンへ反映させ、第3次ビジョンは、令和9年度からの計画とする方向で検討する」とお伝えしました。

しかし、その後、策定期を再検討した結果、「特に延長しなくても、食料・農業・農村基本計画の見直し結果を反映できる」こと、「農林業センサスの結果については、農地面積や農業者の減少等の傾向は前回調査時の令和2年と大きく変わらないことが推察される」ことから、策定年を1年早め、令和8年度からの計画とすることとしました。

具体的には、資料に黄色い矢印で表示していますが、当初、令和7年度に予定していた調査を1年早めて令和6年度に実施し、それ以降の予定も1年ずつ前倒しするものです。

なお、第3次ビジョンは、都市農業振興基本法に基づく地方計画として策定し、これまで農業施策の対象としていなかった市街化区域の農業も含めたさっぽろの農業を振興する計画といたしたいと考えております。

今年度は、来年度以降の調査結果等を集積していくための基礎データを整理中であり、令和6年度は市内全域の農地の調査や農業者の意見聴取、関係機関との調整、市民意識調査等を行って、計画の素案を作成します。

令和7年度は、市民委員を含めた検討会を数回開催して計画案を作成し、令和8年度にはパブリックコメントの実施や市の企画調整会議など、必要な手続きを経て年度末までに策定する予定です。

また、検討委員会は、当懇話会を基本として市民公募委員を数名加える形で進めたいと考えております。

それでは、この計画についての「質疑・意見交換」に移ります。

ここまで説明しました、「第3次ビジョン策定の想定スケジュール」に関して、忌憚のないご意見をいただければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

●委員 特に農業環境の変化が激しい時ですので、前倒しして早めに次の計画を立てるということで大事なことだと思います。ただ、予定より何で早くするのか理由を知りたいです。2025年農林業センサスの公表は令和8年以降になりますし、食料・農業・農村基本計画についても、2025年が改正基本法のものでの新しい基本計画の第1期というこ

とで、政策的に大きな変化を迎えるところだと思います。センサスは「動向として大きな変化は無いだろう」という事ですけれど、コロナ禍を挟んだ2020年～2025年の5年間というのは重要な変化も現れる可能性もあるので、そこは踏まえた方が良いのかなと思います。何か早めるメリットがあれば教えていただきたいです。

●札幌市 一番の目的は、現ビジョンが令和7年までとなっておりますので、間を空けなくなかったというところがあります。通常、こういう基本計画っていうのは途切れが無い様に策定するのが基本となっておりますので、そこを継続したかったという事と、先生も仰ったとおり、いま色んな変化があって、札幌市のこれからの農政の考えっていうのも流れに合う様な形で、特に都市農業の考えをもっと積極的に取り入れた施策にしたいという事がありまして、そこを出来るだけ早く市民の皆様にお示ししたいというところが大きいです。

確かに、最新のセンサスの結果は気になるころではありますが、計画策定の時点であくまで見込みの様な形で（前回のセンサスの結果で）策定させていただいて、大きな変化があればアクションプランなどの中で調整していきたいと考えております。

●委員 有難うございます。市街化区域も含めた都市農業の積極性もさらに評価されてくると思いますし、大都市圏だけではなく、札幌市のような他の地方都市についても考えていかなければいけないという流れもあり、都市農業としての有り様をどう考えていくのかというのは非常に重要だと思います。また確かに「間を空けない」というのも大事な考え方だと思いますので理解しました。

●札幌市 他にご意見ございますでしょうか。

●委員 反対ではなく、もちろん賛成ということで申し上げます。私もお話を伺いまして、色んな意味で計画って、そのとおりに行くかどうか分かりませんが、方針となるものなので、間を空けずに次の計画が立てられるのは良いことだなと思いました。また、今はスピード感をもって色々なことに取り組まなければいけないと言われておりますので、やはりスピードアップして早く様々な対策ができるという点から、大変良いことではないかと思いました。この方向で進めることに賛成です。

●札幌市 有難うございます。他にご意見等ございますでしょうか。

●札幌市 私の方から。市街化区域の農地というところなんですけど、札幌市も人口減少の時代に入ってきていまして、市街化区域の特に郊外の地域では人口も減っていく中で、土地利用も変わってくるというところもあると思います。札幌の場合は、大都市圏の様な形

で市街化区域の農地の税制に対しては、特段、対応を取ってこなかったところもあるのですが、そういった生産緑地といわれるものに取り組むかどうかは、まだこれからの話になるのですが、実際、札幌は「都市農業」と言われている中で、市街化調整区域に近い市街化区域で営農されている方は結構面積の規模が大きく野菜生産されている方も多いう実情を皆さんに知ってもらっていないという事もありますし、農協の組合員さんで長年、ずうっと色々な野菜を提供してくださっている方もいらっしゃいますので、そういったことも含めて市街化区域の農地も市街化調整区域の農地と同じ様な形で支援して、さっぽろ農業を持続的に続けられるようにしていきたいという考えがあります。当然、色々な時代の変化、スピードが速くて、色々な技術を取り入れてというところも進んできていますので、そういったところにも札幌市の農政としても積極的に取り組む形で体制の方も考えていきたいなと思っておりますので、それと併せてビジョンの方も作って行きたいと考えているところです。

●札幌市 その他、ご意見等ございますでしょうか。

●委員 生産者の立場からですが、いま天候不順で農作物が獲れなかったり値段の問題もあって、結構苦しい営農をされている方が沢山いらっしゃるのですが、支援する政策も大事なんですけれど、勇気づけてくれるようなイベント等にも力を入れてほしいと思いますし、計画として5年後から始めるというよりも、来年度から新しいイベントに参加するか積極的にやっついていかないと、今後の5年が無駄になってしまうというか、計画も大事なんですけれど、それをやりつつ皆で楽しめる事、「農業が楽しいな」と思えることを推進していただければ、農業者も勇気が出るかなと思います。

●札幌市 仰るとおりかと思えます。札幌市の農業を知ってもらう、「札幌市にも農家さんはこれだけ沢山いて、皆さんこれだけ頑張っているんですよ」というのを、知ってもらう機会をもっとこれから増やしていく必要があると思っています。それで、そういう意味では「さとらんど」を農業の啓蒙・啓発の場としてもっと活用する必要があります。最近、利用者の数も増えている状況ですので、そういったことを強みに活かして、もっと農業を知ってもらう様な場にしていきたいと考えています。後程、情報提供でご説明させていただきますが、再整備を検討する段階に入っています。なので、そういう流れにも乗っかかりつつ、この新たな計画も示していければなと考えています。

●委員 お願いします。農業をPRするべきなのは、やはり農協の青年部だったり生産者がやるべきだと僕は思っていますので、農協の事業というよりは市と一緒に活動できる機会を増やしていただきたいなど、協力関係でやりたいという思いが強いので、誘っていただけるとか、こちらからも多分アプローチはあると思うんですけど、そういうと

ころで協力していただきたいなと思います。

●札幌市 今年度、農協の広報の方と一緒にチカホでパネル展をやったりしているので、ああいう取組も今後、もっと積極的にやっていきたいなと思っています。

●委員 お願いします。有難うございました。

●委員 この1年間の大きな変化として、JAさっぽろとJAいしかりとの合併がありました。地域農業の振興・支援を担うJAの枠組みが大きく変わりますので、これも地域農業振興を考えていく際に重要な案件だと思われます。新生合併農協の振興計画が何年～何年までか等も、知っておく方が良いかと思います。

●委員 合併しまして、次の農業振興計画は3年間の中期計画としたいのですが、令和8年からの計画となっていて、先生が仰ったように合併絡みですので、石狩の生産者さんも含めてどういう振興計画を立てるかというのは、これから手掛ける状況です。計画策定にあたっては、学識経験者等の先生方にもご参加いただいて、色々な方向性を見出したいなという気持ちがありますので、その機会がありましたら是非とも宜しくお願いいたします。

●札幌市 JAが合併したので、我々も石狩市さんと連携してやっていければなど、そういうことも考えています。

●委員 有難うございます。

●札幌市 その他、ございますでしょうか。

●委員 サツラクは、令和7年度からの3年計画です。ただ、今の情勢が諸外国からの輸入物が高いので、営農を続けられるかどうかの瀬戸際なんです。特に、札幌で酪農をされている方の問題として、ご高齢の関係で少なくなっていますので、札幌市や農業委員会とかで農地の有効利用等の扱い等は、これから提示されるのかなと思っていますが。なかなか将来に向かって明るい話が出来ないのが、現状かなと思っています。

●札幌市 酪農家さんは、牧草地の面積を確保しないといけないし、転作の関係もありますし。

●委員 札幌市内から、石狩、江別方面の圃場を求めて動いているのが現状かなと。ただ、作業機械の免許の関係もあり、皆さん手が回るかどうか踏まえた中で、農協として出来

るかどうかもこれから考えていくのと、交通関係はどういう様な規制があるのかも見通していかなければなと思っています。

●札幌市 それでは、その他にご意見は。特に無い様でしたら、続きまして、次第の2番に移りたいと思います。議事2の(2)「令和5年度の進捗状況」について説明いたします。資料4になります。「進捗状況調書①」をご覧ください。

まず、基本理念の目標であります「札幌産農産物を購入している市民の割合」ですが、この実績値は「市民意識調査」により把握しております。令和5年度は本来の調査年度ではありませんが、参考に実施したところ、62.7%という結果でした。令和2年度の間評価時点が67.4%だったこともあり若干下がっております。前回のアンケートにおいて、「市内に農地があり農家がいること」を知っている回答者の割合が約81%だったのに対し、今回は66%と低くなっており、そもそも札幌市内で農作物が生産されている、という認識が低下してきているということも、要因として考えられますが、引き続き目標達成に向けて取り組んでいく必要があります。

続いて、ビジョンの3つの柱である「基本的な方向」の目標の進捗状況についてです。

基本的な方向Ⅰの目標「意欲ある多様な担い手の農地利用面積割合」は、「経営耕地面積」のうち、「意欲ある多様な担い手へ集積されている農地面積」が占める割合を示したものです。分子の「意欲ある多様な担い手へ集積されている農地の面積」は、年度が変わってからの集計となるため、現時点では令和4年度の実績と同等と見込んでおります。

令和4年度までの傾向を見ると、増加傾向にあり、引き続き、「意欲ある多様な担い手へ集積されている農地面積」の目標達成に向け、取り組んでいきます。

続きまして、基本的な方向Ⅱの「地産地消の取組件数」は、さっぽろとれたてっこのロゴマークを活用する取組数を計上しており、札幌産農産物を市民に広く知ってもらうため、とれたてっこマークを掲げる箇所を増やす取組を行っております。

令和5年度は、手稲区の直売所を中心に令和4年度から20件増加し、目標の年間20件増加を達成することができました。今後も継続して取り組んでいきます。

最後に、基本的な方向Ⅲの「農業に関心のある市民の割合」ですが、こちらも基本理念と同じく、令和5年度は本来の調査年度ではありませんが、参考に実施したところ、45.8%と、令和2年度の51.1%から若干下がっており、引き続き目標の達成に向けて各種取組を推進してまいります。

続きまして、資料の右側「進捗状況調書②」をご覧ください。「後期アクションプランの進捗状況」について、説明いたします。

まず一つ目、基本的な方向Ⅰの(1)「多様な農業の担い手の育成・確保」では、2つの達成目標を設けております。

まず目標1「就農6年目における定着率」は、令和5年度に3経営体が6年目を迎えました。全て営農を継続しており、100%となっております。

続いて目標2「他産業から農業に参入した法人数」は、目標が年間2法人増のところ、これまでに3法人が参入し、目標を達成しております。

次にⅠの(2)「農地の保全と活用」では2つの達成目標を設けております。

目標1「意欲ある多様な担い手の農地利用面積」は、例年2月下旬に実施される国の調査により実績値を算出しているため未確定ですが、大きくは変わらない見込みであることから、令和4年度の実績を入れております。

続きまして、目標2「認定市民農園の開設数」は、令和5年度は新たな開設、廃止はありませんでした。開設相談は数件ありますが、認定の手続きには至っていない状況です。コロナ禍を契機に屋外の活動にニーズが高まっていることから、市民のニーズに沿った農園が整備されるよう、制度の運用について検討するとともに開設者の相談に対応していきます。

次に、基本的な方向Ⅱの(1)「農業経営の安定強化」の目標1「農産物の安全・安心向上のための土壌診断実施数」は令和4年度から若干増加し、188件の見込みとなっております。土壌分析により、作物別に適切な施肥設計が行われるよう、適切に診断を実施していきます。

目標2「未利用都市廃棄物の農業利用に取り組む農業者数」については32人と、令和4年度から若干減少しました。目標である50人を下回っておりますが、定期的に必要なものではないため、人数の増減はあるものの、異物の混入防止や質の向上等、取組の改善についても検討していきます。

続きまして、Ⅱの(2)「地区ごとの農業の個性を生かした多様な取組の推進」の目標1「地域資源を活用し、農業者が連携して取り組むイベント等の回数」は、新型コロナウイルス感染症の位置付けが5類に移行したことを受け、新たに開催されたものを含めて24回と、目標の10回を達成いたしました。

続きまして、目標2「農業交流関連施設の開設数」について、2か所開設されておりますが、昨年度認定し、今年度の開設に至ったものです。今後も、制度のPRや相談対応により6次産業化に取り組む農業者を支援していきます。

最後に、基本的な方向Ⅲの「市民の農業に対する理解促進」では、3つの目標を設定しております。

まず、目標1「市民農業体験参加者数」は、7.2万人と昨年度から1万人減少していますが、この要因は夏期に記録的な猛暑が続き、収穫体験の参加者が激減したことによるものです。なお、コロナ前の令和元年度までは5.7万人前後で推移していましたが、コロナ禍を契機に屋外活動や「食と農」に関心が高まり、さとらんどにおける市民農業体験参加者数は増加していることから、引き続き参加者を増やし「市民の農への理解」を促進していきます。

続きまして、目標2「さとらんどの入園者数」は、年度末の見込みで67万人と、コロナの5類への移行や木製アスレチック遊具広場の開設により大幅に増加していることか

ら、引き続き利用者数の増加に努めていきます。

目標3「さとらんどを利用した人の満足度」は92.5%と若干増加し、目標の90%を達成していることから、引き続き目標を達成できるよう、運営管理に努めていきます。

以上が、目標の達成状況です。

次に、資料を一枚めぐりまして、2ページ「進捗状況調書③をご覧ください。

二年前から、他部局における「農」に関連する取組を一覧にまとめております。農に関連する取組は「食育」でありますとか、「環境」、「鳥獣被害防止対策」、「流通」など多岐にわたります。アクションプランでは、関係する部局と連携して取り組むこととしており、既に連携して取り組んでいるものもあれば、他部局が独自に取り組んでいるものもあります。

詳細については説明いたしませんでしたが、連携できるものについてはさらに推進し、アクションプランの目標達成に向けて取り組んでいきます。

それでは、質疑・意見交換に移りたいと思います。

ビジョンの進捗状況や事業報告に関する内容のほか、札幌市の農業に関して皆様が気にかけていることなど、忌憚のないご意見をいただければと思います。どうぞ、よろしく願いいたします。

●**委員** 基本的な方向Ⅱの「手稲区の直売所を中心に・・・」とありましたけど、これは市が仕込んだのか自主的なのか。手稲区は直売所も多いので分かるのですが、どういう経緯で「手稲区」なのか。

●**J A さっぽろ随行者** 宜しいですか？今の件ですけれども、令和5年度にJ A さっぽろの手稲経済店に直売所を開設いたしまして、その直売所を中心に市内全域で「とれたてっこ」マークを有効に利用していこうという事で業務にあたっておりましたので、書きぶりとしては手稲区が前に出ておりますけれども、札幌市全体という事でご理解いただけたらと思います。宜しくお願いいたします。

●**委員** 分かりました。

●**札幌市** 有難うございます。

●**札幌市** 年度毎に、重点的にこのエリアで「とれたてっこ」のノボリを配布して、直売に取り組んでくださる農家の方に提示していただくという事をしていまして、昨年に関しては手稲に直売所が出来たという、お話のとおりだったんですけど、その前の年は東区のタマネギの倉庫などで庭先販売をしている農家の方を中心になど、毎年テーマを持って重点的に推進しているところでございます。

●委員 有難うございます。

●委員 「とれたてっこ」のマークが、どういうものかと認知させる活動は、どういう風に広められているのでしょうか？

●札幌市 ホームページには掲載しているんですけど、近年、札幌市としてPRに取り組んでいる具体的な事業というのは. . .。

●委員 生産者は「とれたてっこ」のマークを知っているんですけど、知らない人は知らないというか. . .。

●委員 20年くらいやっていますよね？長い割には知られていないのが現状だと思います。

●札幌市 もともとは認証制度という形で、それぞれ農家さんの方から申請いただいて、認証したものを「とれたてっこ」としていたんですけど、3年ほど前に「札幌産の農産物は、とれたてっこ」ということでノボリとかを利用して取り組みはしているのですが、20年経ちますが、なかなか広まらない。やり方そのものを考えていかなきゃいけないというのは内部でも話をしておりまして、JAさんと共同で続けてきておりますので、今回、JAも石狩市さんと合併したこともありますので、どういうやり方で進めていくべきかというのを青年部の皆さん、若い方を中心に改めて話をさせていただきたい。石狩市さんもありますし、周辺の市町村の農産物も含めて都市近郊の農産物をどうPRしていくかっていう方向で考え直して取り組んでいく必要があるのかなと考えておりますので。

●委員 勿体ないし活用した方が良いものだから、「このマークがついていたら安心なんだよ」って、知らない人でも分かる様な取組の方向に向かってくれたら嬉しいなど。

●札幌市 そういった使い方も含めて色々相談させていただけたらと思っております。

●委員 今の「さっぽろとれたてっこ」の事なのですが、直売所に行くと旗などをよく見るのですが、身近なスーパーマーケットでは、なかなか札幌の野菜が並んでいないんですよ。そうすると、先程のアンケートでも「さっぽろの野菜を購入しているか」というのは、何月に調査をするかでも違うと思います。札幌の野菜は、無い時は本当に無いです。だから、知っている人は知っているけれど、知らない人は全く知らないっていうのが現状かなと思っています。それから、この件とは違うのですが、屋外に出るニーズが高まっているにも関わらず、基本的な方向Iの「農地の保全と活用」のところ、認定市民農園の開設数は、開設相談はあったけれど手続きに至っていないという残念な報告だったので

が、何か開設に向けた高いハードルがあるのでしょうか？どんなところがネックになって開設まで至らなかったのでしょうか？

●札幌市 色々事情はあると思うんですけど、簡単にできるイメージがあるのかもしれない。でも、色々話を聞くと、市民農園を開設するにしても農家さん達が普段、手入れだとか負担が生じてしまう部分もあったりして、意外とやらなきゃいけないことがいっぱいあって、そういう部分もハードルになっているのかなという気はします。

もっと市民農園をやりやすくするためにというのも、今後の課題になってくるのかなと思っています。

●委員 相談してダメだったら、諦めている状況なんですかね。「むしろ、やれるために、こんなことがあればいいよ」という様なアドバイスとか、「取り組むための1年目のサポート体制」とか。きっと、聞いて「ああ、大変そう」で終わってしまったら勿体ないかなと思いますね。そのあたりは、どうなのでしょう。

●札幌市 我々としても、市民農園をやりたいという方に対しては、できるだけやってもらいたいという思いはありますので、「こういう風にしてみたらどう？」という交渉等はしているんですけど、最終的には開設に至らないと。

●委員 私も、市民農園を考えたことはあるんですけど、実際経営している農家さんは、自分の作業の合間で農園の圃場を管理しながら駐車場も管理するとか、水の手配とか、付随施設が必要になるのが段々分かってくるんですよ。そうじゃないと、なかなかお客さんが来ないのが現状なものですから。それに対して、「そこまで努力するのか」という話が絶対出るんですよ。それが札幌市で色んな形でバックアップするということも、これだけ広くなったら出来ないのかなと。だから、開設を考えている方の意識がどこまであるのかなということだと思いますけど。立地条件は、それなりに良いと思いますから、「継続して」とか、「利用している方のトラブルの対応」とか。いざとなれば、札幌市に「お願いします」という話が降ってくることになりますから。なかなか難しいのは、その辺なんですよね。

●委員 「札幌市さん、助けて！」って言われるのも、困りますよね。ただ、声を集めてみた方が良いかもしれません。特に、どういう部分がネックになっているか。それで、それを上手く乗り越えた事例があれば、それを紹介したりとか。きっと、増やそうと思ったら、ある程度は手を入れないと難しいのかなと。

●委員 どこまでやるかですよね。「畑だけを耕せば良い」とか。利用者がどういう風

にチョイスするのかなという考え方もあるのかなと。

●委員 後は、貸す方のメリットとか、そういうのも大きいんじゃないでしょうか。遊休地は家の周りにもあるんですが、「この事業に取り組もう」って声は、ほとんど聞いていません。

●委員 やはり、トラブル関係は怖いですよ。それだったら、放っておいて良いくらいの感じになっちゃいますから。

●札幌市 最近、今ある23ヶ所から1つも増えていない状況ですから。基本、「相談が来たら」という体制ではあるんですけど。次のビジョンに向けて色々と調査をしていく状況にあって、市民農園の立地条件で利用率がだいぶ変わってくるものですから、周辺の市民農園の配置状況等も見て、「交通の便の良さ」ですとか「市街地から近い」とか、そういったところから「ここだったら、お客さんが来ますよ」という候補地を選定しつつ、所有者さんに札幌市の方から声掛けをして増やしていくという努力をしていかないと、なかなか増えないという状況であります。その辺も次のビジョンの進め方と併せて、「市民農園の開設の方針」についても考えていければなと思っております。

●委員 市民農園の認定数は横ばいですけども、そもそも「認定を受けてもあまりメリットが無くて、むしろ幅広く受け入れなきゃならなくてトラブルも多くなるから」という状況もあるのでしょうか。

●委員 認定を受けて始めようとしたときに、さっき仰っていた「トイレ」とか「駐車場の整備」など考えることが多くて、(メリットは)税金が安くなるだけなのかという...

●札幌市 そういうところもあるんですね。とはいえ、「やはり駐車場は無い」というのはありますよね。

●札幌市 認定市民農園であれば、札幌市の方から駐車場の整備ですとかの補助は出しますが、持ち出しは当然ございますので。いま大体、年間1区画50㎡で1万円~1万2・3千円くらいが札幌市内の平均的な価格で、4月~10月いっぱいくらいの利用というところがありますけれども、経営として見合うかどうかというのはそれぞれの判断で、それ以上の色々な手間がかかるっていうのが大きなハードルになるのかと思いますので。その辺を札幌市の方でどれだけ負担とか支援をできるかっていうところが重要なのかなと思います。

●札幌市 あと、開設する側もそうなんですけども、参加する側も「参加しやすい環境って何だろう」とか、そういうのも考えていかなきゃならないのかと思っています。例えば50㎡って、初めてやろうっていう人には、「ちょっと大きすぎるかな？」って思う人達もいるのかなとか、いきなり道具も全部揃えて始めるのがハードルに感じる人もいらっしゃるでしょうし。そういう面からも考えていかなきゃならないのかなという風を感じたりします。

●委員 「とれたてっこ」の話に戻して良いですか？いま、私達が買える物のパッケージなどにマークは付いているんですか？

●委員 認証制度の頃はシールがあったんですけど、今は無いです。

●委員 私、たまたま土曜日に、野菜ソムリエの仲間ですら被災地応援という事で加賀野菜を仕入れて販売したんですけど、やっぱり（パッケージに）付いているんですよ。すると、みんな「加賀野菜」、「加賀野菜」ということで買って行くので分かりやすいんです。ノボリって何処にでもあるので、「とれたてっこ」じゃなくても色んなノボリがあるし、スーパーではメーカーさんのノボリが目に入ります。それを考えたら、（とれたてっこも）「ノボリあります」、「やっています」では伝わらないので。あと、箱にだけ付いていても一般の人は見ないんですよ。なので、一般の人に伝えたいのだったら、伝える方法を取らなきゃいけないと思うし、伝えなくて良いのだったら「辞めるか」とか、それくらいやらないと、やった気で終わっちゃうことがあるかと。20年もやっていると、そうしか見えない。私もお店をやっている時、その頃（たまねぎで）「さらら」とかありましたよね？ノボリを立ててやったこともあるんですよ。だから、（20年は）長いなと思っているんですけど、未だに知られていないっていうのを見ると、中途半端なやり方なのかなと思います。普通の袋で（マークを付けて）売る人もいますから、「袋を買え」とは言えないでしょうけど、PRしたいのだったらそこに予算を付けるなどしていかないと、スーパーに並んでいる時には、札幌産なのか札幌産じゃないのか分からない。あと、野菜ソムリエの絡みで石狩振興局さんからの依頼で、「石狩野菜」をPRしてほしいということで、SNSなどで発信したりしています。ただ、その際に「石狩野菜」という言葉に違和感があります。石狩市の野菜のように思えて。個人的には「札幌農業と歩む会」で札幌の農業を応援しているので。例えば「いしかり野菜」という文字に統一するとかを提案していますが、特に音沙汰はない。JAが合併したら、札幌の都市農業が見えなくなりそうな気もして、そこは危惧するところではあるんですけど話題が違うので、まずは「とれたてっこ」に関してはそんな気持ちがあります。

●委員 組織で考える時には、「とれたてっこ」の生産者と一般の生産者との差って何で

すかっていう話が一般の方から絶対出てくるんですよ。それを説明できるかどうかですよ。

●委員 だから、それを続けるか続けないかだと思うんですよ。

●委員 「認証制度です」と謳ってやれば良いのでしょうか。

●委員 でも、前と違って（産地表示制度に）レベルが少し下がっちゃったわけですよ。

●委員 （認証制度が）多分、難しいと思いますね。「（認証制度の時と変わらぬ）努力をしているのに、何でウチらは（産地表示制度の扱いなのか）」という意見がある生産者はいますが、取り扱いが難しいからやめたと思いますけど。

●札幌市 そうですね。同じ札幌産の物であれば同じ様に取り扱えるように、認証制度から産地表示制度として札幌産の物は全て「とれたてっこ」という形に変えました。

●委員 じゃあ、そのネーミングが無くて良いってことですよ？別に考えれば、札幌産と分かる様な表示に変えても良いくらいの位置付けになったっていう事ですよ。この場で（札幌産野菜として「とれたてっこ」が市民に浸透していないことを）悩んだったら、いつも会議の場で%の数字が少ないと話題にするくらいだったら、「もう決着付けて！」という感じがします。

●札幌市 JAも石狩と一緒にあったっていう事もあって、どこまで札幌産というところに拘るのかっていうところも今後考えていかなきゃならないと思います。

●委員 青年部もいま、直売等もやるようになってきて、青年部のマークも作ったんですよ。「SP（SAPPORO PRIDEの略）」というロゴなんですけれど、後でお見せしますが、そのマークのシールでも付けて売ろうかなと思っているんですけど。やはり、何をアピールするかっていうのは、「札幌」っていうところなんです。見て、すぐ「あ、札幌産の物だ」と分かるようになるのが、僕は一番良いかなと思います。

●委員 大きい農家は市場に卸してしまうので、その段階では全くシールとかは貼らないので、（札幌産の物は）見つけられないと思います。

●委員 箱だけは（マークを入れて）使っているけれどというのが多いですよ。

●委員 その箱も．．．。

●委員 捨てちゃう？だから勿体ないと思います。

●委員 よく聞かれるんですけど、「どこに行ったら買えるの？」と。

●委員 そのうち箱も使わなくなりますよね。SDGsの関係で。その分、箱に使っていた予算は今まで箱にかけていた分がシール等に回っていくと良いと思います。

●委員 北海道以外の人って、札幌のネームバリューって、もの凄いものがあると思うんですよ。そこだけでも載せれば全然違うかなと思いました。

●委員 今の件では、仰ったように「石狩」と「札幌」は違うと思うんですよ。感覚として「札幌」って1つのブランドだと思うので、そこを上手にアピールすることが実は札幌だけじゃなく北海道全体の農業も押し上げていくのではないかな、という気がしています。そして別件なんですけれど、基本方針のⅢの「さとらんど」の入園者数の箇所ですが、今年、「かまくらイルミ」でしたか？さとらんどで冬のイベントも力を入れていると思っています。以前から、農業というと、割と春～秋くらいまでの取り組みのように思われ、冬はどちらかという見えな部分があると思います。でも冬って、とても大事な時期だったり、冬を上手く利用する「雪中野菜」などもあるので、冬も農業に親しむことって大事なかなと思うんですよ。そういった意味では、冬のイベントをして、冬でも日持ちするお野菜だったり、雪中野菜が出来るんだったら、キャベツを掘ってそこでお料理をすとか、冬を上手く使っていくことが「さとらんど」の入園者も増やしていくことになるし、農業に親しんでくれる新しいお客様を増やす良いチャンスなのかなと期待しているところです。

●札幌市 我々も、冬の集客っていうところは予めから課題と考えていまして、今回の「かまくらイルミ」もそうなんですけれど、雪まつりの前に大鍋のイベントもやったりして、冬に出来るだけ多くの人達に来てもらおうというのを、いま一生懸命やっているところなんですよね。ただ、来てもらって、そこから農業を知ってもらうっていう展開にまでは、まだあまりいっていないというか。勿論、冬場でも地元の野菜を使った教室などのイベントもやったりしているんですけど、先程仰った様な冬野菜みたいな雪中野菜を掘り起こしてもらおうとか、来てもらって「農」を体験してもらおうっていうところも次の段階として考えなきゃなという風に考えています。

●委員 札幌で冬の野菜を作っている人は、あんまりいないんじゃないですか？

●札幌市 冬の野菜は無いんですけど、先程言われたみたいな．．．。

●委員 持っている野菜ということであればね。

●委員 今、動物が増えていて、雪の下に置いておくと掘り返されるっていう被害が南区の農家さんにはあって、そこら辺を考えると本当に農業として冬野菜をしっかりとお金をかけてやるんだったら出来るけれど、そう簡単なものではないかなと思います。

●委員 少し関連するんですけど、最近、青年部等で害獣被害がすごく多くて、特にシカとキツネなんですけれど、キツネの事を言う人が多くて、法令でもキツネを撃っちゃダメみたいなのもあるのかもしれないですし、檻は設置してくれるんだけど、捕まえた後の駆除のお金は全部自分で払わなきゃいけないとか。畑って全部繋がっているんで、その家だけの問題じゃないんですよ。

●委員 住宅地の中まで、キツネの足跡がありますので。

●委員 野菜をちょっと削られるくらいなら別に良いんですけど、こわいのは「札幌の野菜はキツネの糞が付いた野菜」などの風評被害に発展するのが嫌だなと不安があります。

●委員 冬は足跡が見えるけれど、夏は見えないので。

●委員 まず、これは「さとらんど」の入園者数についての話ですよ？来ている人に対して、如何に札幌の野菜とか農業を知ってもらう次の手がまだ弱いってことですよ？

●札幌市 冬に関してはですね。夏は積極的に来てもらって、「農」に触れてもらう収穫体験だとか、イベントとしては結構多くやっていますから。

●委員 だから、「札幌に農業があるよ」とか札幌の農業を伝えるっていうのは、まだやり方は分からないけれど違う形で伝えるっていうのが出来なくもないという事ですね？

●札幌市 はい。冬に来てもらって、更にそこから「農」に触れてもらうっていうのは考えていくということです。

●委員 せっかくここまで来てるから、その先に何か作って行かないとダメだと。

●札幌市 はい。あくまで「さとらんど」の目的っていうのは、そこなので。

●委員 この67万人って、どういう風に数えているんですか？凄い数だなと思って。本当ですかね。

●札幌市 計算式があつて、駐車場の駐車台数と、1台当たり何人という係数をかけて、ずうっと同じやり方でカウントしてきていますので、絶対的な数字かと言われると100%かというところは何とも言えないところがありますが、増減という意味では、しっかり表しているかと思います。

●委員 私も関わっているマルシェとかも定期的にやっているのですが、そういうところでも増えているとは思いますが、確かに今年の冬のイベントは告知が目に入りました。いつもは（告知が目に入らず、）何やっているんだろうっていう状況だけど、Facebookか何かで「鍋やっていますよ」みたいな告知が上がってきたので、やはり発信って凄く大事で、目に入ることはなかったので、実際、（それを見て）行かれた方はいるとは思いますが。この人数かどうか分からないけれども、増えている様な気はします。

●札幌市 指定管理者が色々な所に発信しているというところがあつて、我々農政部の方が（発信が）足りないかなというところがあります。

●委員 やはり、指定管理者ですよ。替わっているから、やる気があると色々な事を考えてはいるんでしょうけれど。

●札幌市 替わって1年目ということもあつて。

●委員 3年に1回かい？指定管理者というのは。

●札幌市 5年に1回です。

●委員 なかなか大変ですよ。人を集めてなんぼの世界に入っちゃうから。企画・立案が出来る業者にならざるを得ないと思うんですよ。

●札幌市 そうですね。やはり、そういった意味で今回、指定管理者が替わったということも、提案が評価されてという事だと思いますので。

●委員 ちょっと確認なんですけれど、基本的な方向Ⅰの多様な担い手の育成・確保「就農6年目における定着率」が100%、これは確かに農業を始めて6年目位に経営が持たなければ辞めちゃうというのがあるんですけど、何の業種の経営をやっているのか教えてほしいのと、その下の「他産業から農業に参入した法人数」って3法人ありますが、この法人ってどういう形なのかをここに書いてもらった方がいいと思う。他産業から加入された法人なのか、農家同士で作った法人なのかっていうところも書いていただければなど。支

障なければ後程でも良いですので。

●札幌市 調べて回答いたします。

●委員 私も、基本的な方向Ⅱの「農業交流関連施設の開設数」って増えていると書いているけれど、1年で何が出来たのかなと。

●事務局 今年度に開設したのは、有明でサツマイモとかトウモロコシを作っている農家と、山の手でリンゴを作っている農家ですね。

●委員 それが交流施設ということで開設した。交流施設は、直売所は入らない？

●札幌市 入ります。直売所ですとか、農家レストランですとか。

●委員 JAの北札幌支店の横に、札幌村の郷土資料館があまり大きくないんですけどあるんですけど、ちょっと寂しいというか全然活用されていない様に見えて。館長っていうんですかね、館長さんと助手の方なのか二人位で高齢の方がやられていて、僕も知り合いなので行くこともあって話すんですけど。（見た目は）寂しそうな感じがして、でも入ってみると昔からの農業の道具などが全部置いてあったり、札幌が（全国で）最初に玉ねぎを始めたっていう歴史を全部収めてあるんですよ。そういうのも教育の場として、学校で行くとか、どんどん活用してもらえれば。一昨年位ですかね、外に大友亀太郎の像も新しく建てたとか、そういうのも知らない人ばかりでは？環状通のゲオの近くで、農協のすぐ横です。

●委員 大友亀太郎が何をやった人か分かっていない人達もいるから。農業と違いますけど、もうちょっと札幌の歴史のPRには何かあっても良いかなと。

●委員 小学校の時に習ったんじゃないかな。授業で。

●委員 授業で習いましたよね。行ったら小さいマンガのパンフレットをくれたりするんですよ。あれも市の管轄になるんですよ？

●札幌市 そうだと思いますね。

●委員 屯田地区にも地区センターの中に資料館があるんですけど、小学校で定期的に見に来ていますよ、1年に1回くらい。各学年が来るのか分からないけれど。

●委員 屯田のお近くの人だけですよね、きっと。

●委員 勿体ないですよ。

●委員 そうですね。屯田地区の小学校。でも、毎日オープンしていて、私も毎日のように地区センターには行くんですけど、資料館には行かないかな．．．。とはいえ、何回かは行っているんですけど、本当に宝の持ち腐れみたいな感じです。身近な資料館でも。

●委員 農家さんって、食育に興味がある人が多いんですよ。でもターゲットが決めきれなくて。「小学生」にするべきか「幼稚園児」にするべきか「大学生」にするべきかとか。全道的には学校の先生をターゲットにして食育していたりするんですけど。そこは、どこに攻めていくべきかが、あまり分かりづらいなと思って悩んだりしています。

●委員 現時点で考えると、札幌の農業は「小さい」ところだけが目についてしましますが、歴史的にみれば、酪農も玉ねぎもそうですけれど、北海道農業の出発点・発祥の地がありますし、多様な農業があるという点では、北海道農業の縮図だということができると思います。だからこそ札幌市の農業史を掘り起こして、自治体としてPRしていくということは、非常に重要だと考えます。最近では、北広島が、中山久三の育種した（稲の）赤毛を復活させて学校教育に取り入れて、原料にしたお酒を開発・販売までしています。それと同じ様に歴史のある札幌市農業という財産を、もっと「見える化」していくっていう意味では、現存する地域の資料館等をどんどん活用するのは大事ですよ。それが多分、新しい札幌市農業のブランド作りにも繋がるし、歴史の上に、「さっぽろとれたてっこ」のブランドが乗っかるというかたちになると良いですね。

●札幌市 資料館ですね。確かに、あまり気が付かない部分ではありますよね。

●委員 だからこそ、「北海道農業の縮図」だとか「農業発展の出発点」ということを、もっと上手く伝えられたら良いなと思いますけれど。

●委員 その資料館にあった道具は、ついこの間までウチの納屋にあったんですよ。昭和50年頃から宅地化になって、稲作が出来なくなったんですよ。用水が通らなくなって排水も無くなると、その地域全域が出来なくなるんです。それで納屋にあった色々な物が昔のその辺りの時代の物で。小さい農家だから、機械化なんて出来ない。

●委員 今のお話を聞いていて、少なくともウチの学生を連れていきたいなと思いました。それはちょっと置いておいて、先程、「どこをターゲットに食育をするか」と言うお話で、

まずは学校の先生方に勉強してもらおうというのは良いと思います。それこそ、学校の社会科学見学等で何処に行くかというのは、結局は先生方がデザインされますよね。だから、そういう先生方の心をちゃんと掴んでおくと、「じゃあ、ウチの学校の何年生の社会科学見学は、そこに行こう」という風に広がっていくのかなと思います。

●委員 昔は学校に畑が無かったですか？

●委員 有りましたよ。

●委員 今も、有る所はあります。先生方が、まず興味を持つかどうかによりますよね。

●委員 最近、ライフデザインみたいな授業に取り組んでいる大学も増えていると思います。名寄の短大も生産者と一緒に農業に取り組んだものがあったりしています。また、この間、札幌市民ギャラリーで開催していた東海大学デザイン科の卒業発表を見に行きましたが、とても素晴らしい。コロナ禍で2年間、大学に行けなかった学生達の発表。中でも、最高賞を取った発表の内容に感動しました。その学生は1年間、介護施設でアルバイトをしながら、施設がもっと介護しやすい提案を、ライフデザインの目線を加えて行っていました。例えば、統一したビジュアルとすることで入所者にも良く、近隣の人達も相談しやすい環境を作ったり、それも自分が卒業していなくなっても良い様にマニュアル化したりしたとのこと。また、私が関わっていることですが、岩見沢農業高校の食育授業に行って、私が高校生に対して講座や料理教室をしています。ただ、この授業は、「高校生が小学生に伝える食育」のためのもので、歴代の学生達が続けています。今年度は初めて中学生に出前でSDGsの講座も行っています。これらは学生（若者）目線での食育で、大人では気付かないようなこともあって、私も勉強になります。

●札幌市 学校との連携って、本当に重要だなと思います。そういう仕組みを作れば、毎年、学校として参加してもらったりできるし。やはり、子供の時から「農」に触れるってことは凄く重要なこと。ここで獲れた物が自分達の食べ物になるんですよっていう様なことを知ってもらうのは凄く大事なことだと思います。

●委員 授業になっちゃうけれど、継続性が出てくるんですよね。

●委員 青年部で、もなみ支援学校（札幌伏見支援学校もなみ学園分校）っていう、ちょっと障害を持った子供達の学校で、講習して簡単なビデオを見てから、札幌の野菜だけを使った給食を一緒に食べるっていう活動をしていて、凄く喜んでくれて「美味しい」「ありがとう」って言ってくれるし、農家にとっても活力になるし、子供達にとっても農家さ

んに会えるっていうだけでも良い経験になるので、そういう活動はやって行きたいなって思っているんですけど。給食って難しいらしくて割り込めないというか、「札幌の野菜を全部使って！」って言っても、普通の学校じゃ使ってくれないみたいなんですよね。

●委員 確か去年、清田も（給食の）野菜が減ったんですよ。今まで10品目位あったのが、ちょっと少なくなるっていう話を聞いて。ちゃんと聞いてはいないですけど噂だけは聞きました。

●委員 学校給食会で決まっている部分と、栄養士さんの取り組み方や意見によって左右されますね。

●委員 女性部では、札幌市立みなみの社高等支援学校にレストランがあって、「レストランで使うメニューとして、野菜の漬物をアレンジしたものを教えてほしい」ということで、今年で3年目位になるんですけど。生徒さんは可愛いんで、私達はお婆ちゃんっていう感じなので、だいふ慣れて。野菜の切り方をバツッと真ん中から切るんじゃなくて、「野菜も目的によって切り方で味が違うんだよ」というのを教えさせていただいているんですけど。それがメニューに変わっていくっていうのが私達も嬉しくて。それで、学校自体でもかなり大きい畑を作っているんですけど、先生がものすごく一生懸命で私達自身も楽しいっていうのがあります。その繋がりから、小林牧場っていう札幌市の酪農家の牛乳を卸してもらっているとか、色んな広がりがいま出てきていますね。それで、その生徒さん達も札幌市役所のロビーでカフェみたいなので出ていましたよね？そういう繋がりが段々広がってきているかなっていうのがあります。後で、こちらからの状提供資料の中で、女性部と青年部が活動した令和5年度のご報告をさせていただく中でもう少し...

●委員 今の話題だと、連携は保健福祉部になるんですか？

●札幌市 保健福祉部だとか、あとは区とか。東区なら東区とか。そういう所と連携して。

●委員 そういう時って、どっちが頭になるのか...。それによって内容が変わる様な気がする。私にも、こうやって食育の資料（第4次札幌市食育推進計画）を送ってきたんですけど...

●札幌市 そこは保健福祉部なんですよね。

●委員 何か、（農政部と）繋がったら良いのにとすることがいっぱい書かれています。

●札幌市 そうですね。この中でも「農」との関りみたいところが結構取り上げていただいているので。保健福祉部の方でも、そういう部分は重要視していただいているかなという風に思っています。

●委員 （保健福祉部と農政部が）「キッチリくっついてやってくれば良いのに」といっつも思いますけど。

●札幌市 そういう部分も考えていきたいと思います。だいぶ時間がオーバー気味ではあるんですが、この他にこの部分について御意見ある方、いらっしゃいますでしょうか？

●委員 このページ（資料4 進捗状況調書②）までですね？裏面（資料4 進捗状況調書③）は後ですか？休憩した方が良いですか？

●札幌市 勿論、裏面についてもご意見あれば。休憩後は情報提供に移ってしまうので、もし、ここについて御意見ございましたら、いま仰っていただければ。

●委員 意見っていう訳じゃないんですけど、清田区はよくやっているなっていうのが目に入りますね。きよたマルシェも長いですし、スイーツスタンプラリーとか。ほうれん草のポーラスターを使ったスイーツを結構定期的に出していたりとか、地元愛が出ている感じがあって。コロナ禍も結局大きなマルシェが出来なくても、区役所でミニマルシェでやられていたりしているので、凄く頑張っているなと思ったり。あと、厚別区役所の食堂でも「サッポロ大球を作っているのは、このオジサンですよ！」みたいな写真もあったり、あと、保健福祉部なんでしょうけれど「（1日あたり野菜を）350（グラム以上）食べましょう」というのが書いてあって、「厚別区の今日のメニューはこれ」「野菜が多いメニューはこれ」とか、凄く良いんですよ。結構お客さんもいて、生産者の顔が見える食堂になっているので、取組としては良いなと思っているので。頑張っているところは、凄く頑張っているなと思いました。「札幌黄PR事業」と書いていますけれども、この間は（札幌）大球で開発局の「わが村は美しく（北海道運動）」で表彰されたんですよ。特別賞を獲ったり。それは札幌大球なんですけれども、札幌黄も一緒に表彰してくれたら良かったのと思うんですけど。そういう頑張っている部分もあると思います。ただ一つ残念なのは、「食生活改善展の開催」とありますけれど、私、敢えて去年、東区の「食改さん」というのを受けに行きました。この人達、ボランティアするには、あまりにも知識が無い。なので、もう少し何とかしないと。市は、その人達に頼り過ぎ。

●札幌市 ああ、なるほど．．．。

●委員 もうちょっと出来る人がやってくれば良いけれど、私が行ったら、みんな「野菜を食べていなくて、これから体質改善しようと思っています」みたいな人達が多くいたんですよね。だから申し訳ないんですけど、パネル展も今の時代に合っていないんですよ。「（食改さんに）なれる人がいない」と凄く困っていて、「（人数が）少なくて高齢化」と言っているんですよ。だから、言葉が悪いですが、高齢化の人達が発想するパネル展なので、若い人は「つまらない」と思っているんですよ。やはり、今の時代に合う様なビジュアルにしなきゃ、パネル展も「何か無駄」という感じがしました。

●札幌市 ああ、そうですね。惰性的になってしまっているというか．．．。

●委員 だから、ボランティアさんがやっているから、「頼っている。仕方ない」なんだけれど、でも、「何かが無駄」という感じがします。

●委員 最近、農協のイベントだと、カゴメさんから「どれだけ野菜食べたか（を答える）」という機械をレンタルしますね。

●札幌市 ああ、ありますよね。

●委員 ベジチェックですね？

●委員 そう、ベジチェック。

●委員 分かりやすい何かがあると。キッズ野菜ソムリエっていうのが今できて、年中さん～小学生で「ちょっと野菜に興味ある」という子に、半分はエプロン代なんですけれど、エプロンと黄色いスカーフをあげるということで、ちょっとした講座をやるんですよ。目的は、「自分の言葉でお友達に伝える」。「トマトって黄色いのあるんだ！」とか。分からなかったことをお友達に伝えるっていうのを資格制度にしたのがあって、去年初めて1回目をカゴメでやったんですよ。そうしたら、入った瞬間にみんな、（そういう機械を）触りに行きましたからね。

●委員 今年の5月にJA女性部で、カゴメの長野に大きな工場があるんですけど、そこに見学に行く予定でいるんですけど。丘珠飛行場から飛んで松本まで行く予定で。組合長、ご存じなかったですか？

●委員 初めて聞きました。

●委員 私、カゴメさんとはお付き合いがあるんですけど、「何かいっしょにやろう」って言ったら、多分、入ってくれたりすると思うんですよね。キッズの時も、ウチの協会では「一部はトマト講座、二部は自由にしたい」という感じで、カゴメさんに相談したら、「あ、すぐウチでやって！」という感じになり。別件で、札幌市じゃないですけど「クボタ」にもお話をしたら、「食育活動をしたいから、講座をやりたい」と言ってくださって。なので、札幌市や農協さんでも、キッズ野菜ソムリエ講座をやっていただいたら良いかなと思うんですけど。小さい子達も名刺と認定証を貰うんですよ。「私、〇〇です」とかって言って。そういう仕組みを作ったりもしているので。やはり、パネル展に行った人達が、「凄いな」とか「楽しそう」っていうのが、そのパネル展で伝わらなかったんで、ちょっと残念だなと思っていました。

●委員 最近は、やっていないんですけども、「料理フェスタ」っていうのを何年か前にJAさっぽろで引き受けて、厚別のキッチンでやったことがあるんですけど、そういうのをやると良いですよ、年に1回でも。広いキッチンがあるので、JAさっぽろでも出来ると思いますよ。計画させていただければ。

●札幌市 そうですよ。そういった各種取組っていうのも、中には一生懸命やっているところもあれば、惰性的なところも．．．。

●委員 惰性ではないんですけども、今の時代に合っていない。だから、さっき言った様に、若い人の力、高校生や大学生が力を入れたら、このパネル展ももうちょっと見やすくなったりするなと思って。

●札幌市 そうですよ。そういうお子さんとか学生だとか、あと、先程カゴメとかっていう話もありましたけれど、民間さんの力だとか、そういうところも。民間企業さんも、こういった部分に関心のある企業が沢山いらっしゃると思うので。

●委員 すみません、脱線しますけれど、「市場祭り」ってあるじゃないですか、9月に。私1回だけ依頼されて、すぐ「小松菜のチラシを作って」って言ったんですよ。無理言って。それで「キューピー」に営業に行って、ドレッシングとマヨネーズをいっぱい提供してもらって、キューピーとのコラボみたいな感じで。その時は、その場で料理して、「え？マヨネーズで食べるの？」みたいな感じで皆さん試食してくれて、小松菜をPRしたとか、茹でたやつに「好きなドレッシングをかけて良いですよ」とか、そういう物の提供だけでも来た方達は「あ、そうやって食べるのか」「そういうやり方があるのか」とか、「札幌って小松菜が有名なのね」っていうくらいは短時間で伝わったかなと思うので。そういう力を借りる。

●札幌市 そうですね。そういうので力を借りてやるっていうのは、1つの在り方かなと思いますし。

●委員 他の資料に「豚汁が好評だった」って出ているんですけど、これ私達がやったイベントの時だと思います。

●札幌市 あ、玉ねぎの。これは後程、説明いたしますので。そうしたらですね時間が...

●委員 もう少しビジョンの中身に関わる部分を議論させて頂きたいのですが、電気柵は先程の鳥獣害の件でも出ていましたが、鳥獣害対策としては、電気柵だけでは不十分ということですよね？

●委員 そうですね。周りでやっている方はいるんですけど、現実的じゃないか、僕は自分の畑だけ囲えば良いっていう問題でもないと思うんですけど。

●委員 変えられるんだったら、電気柵だけじゃなく、もうちょっと鳥獣害全般の費用負担とか、...

●札幌市 この資料にある「鳥獣害防止対策の実施」っていうのは、「環境都市推進部」というところでやっている一般市民向けの家庭菜園の電気柵なんですけれど、農業者向けは農業支援センターの方でやっておりまして、補助率等も全然違うんですよ。農家向けの方はもっと手厚くやってまして、ただ、いま大畑委員が仰った様に、電気柵だけではなく鳥獣被害の防止というのは「物理的に遮る」ということと、「個体数をコントロールする」という両輪でやらなければいけないっていうのがあって、シカも今凄く増えているので、そのためにはハンターさんの力も借りなければいけないという事で、そのハンターさんが活動しやすい様な環境を我々の方で提供するため、来年度は駆除したシカを処分するための機械や一時保管する施設の整備などを今、予算要求しているところです。

●委員 これは他部署の内容なのですね？

●札幌市 はい、他部署です。

●委員 これは家庭菜園用の電気柵ですか。

●札幌市 市民のです。農家の方の畑の電気柵は支援センターの方で。

●委員 それは分かるんですけど、テレビを見ていると家庭菜園の無い所にもたくさんクマが出ているので。どういうものが家庭菜園？どこからどこまでの大きさでなきゃダメとか、そういうのは無いんですか？野菜が植わさってれば？

●札幌市 自分の庭で作っているものは家庭菜園という事で、環境局の方で。

●札幌市 市街化区域とか調整区域とかも関係無くて。

●札幌市 それで基本、クマの出没が多い地域ということで南区ですとか西区ですとか、そういった所で家庭菜園をやっている方への補助っていうことをやっていますね。

●委員 それは広報に載せているんですか？

●札幌市 載せていると思います。

●札幌市 農政部の方では、アライグマの駆除は、農家さんに処分費とかの補助は札幌市の方で出来ますけれども、一般家庭にもやはりアライグマは出るので、そういったところは環境局の方で箱罠を設置して、駆除したものの処分というのは環境局の方がやっていますので。その辺は、「一般市民向け」と「農家さん」ということで役割分担して十分な対策をやっています。

●委員 果樹栽培やっていた方からよく聞くのは、離農した後に、なりものの木に目掛けてクマ等がいっぱい出るというのは聞くんですけど、そういう指導とかはやっているんですか？離農した後の処分とか。

●札幌市 環境局の方で、残された果樹の伐採ですとか、そういったものもここ数年はですね、かなり重点的にボランティアの方と一緒に進めていまして、だいぶ対策は進んでいるかと思います。南区の方ですとか、山際で昔、果樹園をやっていた所の果樹の伐採ですね。

●委員 （動物が）何でもいるって言っていましたね。

●札幌市 札幌の場合は、市街化が広がっていく中で、「すぐ裏が山」という住宅地も沢山ありますから、なかなか山との間の境界を全て囲うというのは出来ないんで、クマの出没がよく見られる経路にあたる所の草刈りですとか、そういったことでバッファゾーンをなるべく設けて、ヒグマが直接すぐ市街地に入って来ない様な対策というのを環境

局の方でいま、取り組んでいるところです。

●委員 アライグマとキツネの差っていうのは、国で判断するんですか？

●札幌市 アライグマは「特定外来生物」ということで、「獲ったらすぐ駆除しないさい」ということになっていますので、札幌市の方でも処分費を負担しているんですけども、キツネは. . .。

●委員 アライグマは駆除できるけども、タヌキはダメなんだよね？

●札幌市 はい、タヌキとかキツネは農業被害っていうことで、捕獲の許可の申請をJAさんから上げていただいて、捕獲しています。ただ、捕獲したものを最終的に焼却処分とか、そういったところの費用負担は農家さんがご自分で負担されている状況になっています。

●委員 「家庭用」、「農地」といっても動物には境目が無いですからね。だから、環境都市推進部と農政部が連携する必要もありますね。鳥獣害（キツネ）はエキノコックスの問題等もありますから、風評被害が怖いんですよね。

●委員 1件出ただけで全部、ダメになっちゃう。

●委員 市内の中央区にもキツネが、植物園とかにいるっていいいますからね。何処にでもいるんじゃないですかね。

●札幌市 何処にでもいますね。

●委員 植物園の横を歩いていたら、中に親子みたいなシカが2頭入っていて、「え？どうしてこんな所に？」って。結構高い柵みたいなものがあるのに、あれを飛び越えて入るしかないはずなのに、シカって凄いなと思って。入るんですね。ビックリしちゃった。クマでなくて良かったと思って。

●委員 そう。ネットでも飛び越えますから。

●札幌市 はい、すみません。そうしたら時間が押しておりますので、一旦ここで休憩という事にさせていただきたいと思います。35分開始でも宜しいでしょうか？35分から開始の形にしたいと思います。

(休憩)

●札幌市 そうしたらですね、休憩明け後ということで議事の(3)ですね。情報提供に移らせていただきます。まず始めにですね、JAさっぽろの青年部さんと女性部さんの方から情報提供がありますので、すみませんが宜しくお願いいたします。

●委員 手短に。報告書の冊子で進めさせていただくんですけど、前半が青年部で女性部が後半なんで分けて説明したいと思うんですけど。まず伝えたいなと思ったのは、この表紙の写真ですね、レタスの。それと、この「虹のしずく」の表紙と3ページ目まで、養豚の古川さんまでの写真、幾つかあると思うんですけど、全て「曾我さん」というカメラマン。去年も紹介させてもらったんですけど、プロの方に契約して頼むようにして、この写真を撮ってもらう様になったんですよ。それで先程、話してもらった地下歩行空間のパネル展っていうのも、この写真をメインにした青年部主体の写真。曾我さんの写真展として開催させてもらって、人の感じ方によるかもしれないですけど、僕は「凄く良い写真だな」っていう、一目見て農業の魅力が詰まった写真。今まで青年部の資料は全部、文章だけのものだったんですよ。良い写真を撮ってもらうようになってから、資料に全部写真を付けるように変わりました、それだけでも「農業って、何か奇麗だな」っていうか、「美しいな」っていう印象が持てるようになりました。

活動なんですけど、2ページ目からですけど、最初は、先程も話がありました様に「たまねぎフェア」での青年部活動として、玉ねぎの詰め放題をやりました。これも後で出てくるんですけど、女性部と共同活動でやりまして、規格外玉ねぎ、あまり形がきれいではない形が悪い玉ねぎの詰め放題をやって、子供達が凄く来るイベントなので、子供達は楽しそうに詰めていました。3つ目の写真で、STVラジオの取材も受けて、PR活動としても成功したと思います。

その下のオータムフェスト、これは大通公園のイベントで初めてやった活動なんですけど、ブースを借りてレタス、ほうれんそう、小松菜、玉ねぎなどの野菜を販売する。それで先程、青年部のマークを作ったっていう話をしたんですけど、この緑の幕に付いているマークが「SAPPORO PRIDE」っていうテーマで自分達で作って、これもデザイナーさんに最終的に作ってもらったんですけど、これを作ってメインに活動してまして、2枚目の僕の写真があって黒いTシャツを着ていると思うんですけど、これにも「SAPPORO PRIDE」のマークを付けて、「mont-bell」さんという登山具の会社のTシャツにマークを付けてもらって、一般には買えないんですけど、青年部で使ってやっていました。

次のページに行きますと、これは東急百貨店のイベントとして、「学生達が勉強して商品を発売する」というイベントに、農家の見学として青年部が協力させてもらって、学生さん達に来てもらったっていう活動です。下のページにも色々感想はあるんですけど、

やはり現地に行って、どういう所で作られた野菜かを見てから「調理」だとか「食べる」っていうのに移ると、美味しさも全然変わってくるし、感動もあるし、とても良い活動でした。

その次のページにスープカレーの写真があると思うんですけど、これは昨年度の青年部のメイン活動になったんですけど、スープカレーの「奥芝商店」さんっていう、全国的にあるチェーン店でオリジナルメニューを作ってもらったんですけど、ここに載っている野菜は全部、札幌産の物。一部、江別だとかも入っているんですけど。ベーコンは、さっきの「虹のしずく」に載っている古川さんの「古川ポーク」で、とても美味しいんですけど、ちょっと観光客向けで2,600円っていう価格になっちゃって、なかなか行きにくいところではあったんですけど。

●委員 でも、凄い大行列だった。2,600円だけど凄いボリュームだねって。

●委員 これも、下の新聞に載せてもらったりだとか。大体、青年部の活動は、テレビ・ラジオ・新聞などのメディアに出してもらう様に協力してもらって。それで、活動してもPRしなかったら、何もなかったと見られちゃうというか、やはり評価されなくなっちゃうので、こういうところに力を入れてPRしています。これも今年もやりたいと思っていますし、どんどん新しい取り組みをしたいと考えております。

次のページからは女性部の活動がメインになるので、菅原部長、お願いしてもよいですか？

●委員 先程、豚汁のお話をしたんですけども、目次の所の一番上の「たまねぎフェア2023」で、これは青年部が規格外の玉ねぎの詰め放題を企画しているんですけど、その時に協力するという事で、さとらんどで、何ていったっけ．．．。

●委員 何館っていうんでしょうね、交流する場所。

●札幌市 交流館です。

●委員 そう、交流館。この写真でいくと、青年部が玉ねぎの前に立っていらっしゃるんですけど、その横の方に前掛けした女性達がいっぱいいますけれども、これが女性部ですね。それで、この前掛けも「mont-bell」さんと一緒に。でも、楽しんでやりましょうという事で始めています。それで、この時の豚汁は、お肉が「古川ポーク」の最高級のお肉で、そして野菜は全部、札幌野菜ですね。お豆腐は江別とかかもしれないです。さっき小松菜の話が出たんですけども、長ねぎは中に入っていますけれども、サッと茹でて刻んだ小松菜を入れたら「シャキシャキ感凄く良い」と評価されまして、一昨年が200

食で、令和5年度が300食出まして、それでもまだ列が出来ていまして、お天気が良かったので大変好評でした。お味噌はですね、JA新はこだての女性部さんが作って下さった3年味噌を使いまして、ダシは本だしを使ったんですけど、どうも引かかったので、昆布だしも混ぜましたらグッと味が変わりました。このラジオに出たのも、隣に私もいまして一緒に出たんですけど。

その後ろのNO.5の女性部本部役員日帰り現地研修というのがあるんですけども、7ページになりますね。これですね、「札幌農業は、どんなものか」という事で、私達はずっとJAさっぽろの女性部にいたんですけど、コロナが増えまして見直してみると、農業をやっている方は勿論いらっしゃるんですけど、よく分からない部分が多いんですね。どういう人達で作っていて、どういう人達が6次化をしていて、どんな物を作っているのを、もう一回、一から考えようという事で始めたんですけども、すごく好評で。一昨年は南区の方から出発して厚別のあたりに行き、去年は手稲、石狩の一部に行きましたね。今年はまた、農家さんがやっている焼肉屋さんとか色々食べられる所もあるので、もう少し掘り返しながら行きましょうということで。これ全部行ったんですけど、本当に美味しい。ミルクフレンドのソフトクリームとか、まつもり農園さんのかぼちゃのソフトクリームとか。これは女性部の活動の一環という事で行かせていただきました。

6番目は野菜マルシェで、青年部さんに野菜を持って来ていただいて、それを一緒に売ったんですね。

●委員 プリンズホテルさんの正面玄関の所でやらせていただいたんですけども、街中で野菜を売るっていうのは、さっきのオータムフェストもそうなんですけれど、あまり需要がある訳ではないんですけど、「札幌の野菜が売っている」というPRにはなりませんし。

●委員 この日は「北海道マラソン」の日で、雨は降るし最低だったんですよ。でも、完売したんですよ。やはり、「札幌の野菜って結構魅力あるんだな」という。やはり、「札幌の中で獲れて札幌の人が食べる」というのが「新鮮」という、「地産地消」ですよ。

●委員 夏だから結構、葉ものは大変だったでしょうね。ブロッコリーとかも。

●委員 私達は、あまり高い値段では出していなくて、普通に買える値段でやらせてもらって。陳列も段々慣れてきて、キレイに並べると、やはり印象が良いっていうか。ユニホームもみんな揃えていることが価値あるかなと思って。バラバラの汚い格好だと、やはり売れないっていうか。

●委員 その写真が8ページに載っていますね。大雨の中で雷も鳴ったんですけれど、完売しました。

その次の市立みなみの社高等支援学校。先程お伝えしたのが8ページの下の方にあるんですけれど、一昨年も学校で獲れた大根を、冬にかかってどういう風に消化していったら良いか。畑の雪の下に大根を埋めてあったんですけれど、早く食べないと傷んでしまうということで「漬物を出しましょう」と教えたんですけれど、生大根のアロニア漬けと、ヤーコンも学校で作っているという事で。それで、アロニアも学校で作っていてアロニアの実をジュースにして色付けするんですけれど、アロニアも灰汁抜きをしていかないと甘い味にはならないので、それをお伝えしながら。最初は学校で渋いのを食べていたんですけれど。

●委員 何回か冷凍したら、良いって言いますもんね。

●委員 そうなんです。3～4回、冷凍・解凍を繰り返して、やっと美味しいアロニアが出来るんですけれど、アロニアのソースで大根の色付けと味付けをして、それをみなみの社支援学校の「社カフェ」っていうんですけれど、そこでカレーの添え物とかパスタの添え物で使っていただいていますね。今でも時々、出ています。去年は、「三升漬けを漬けて欲しい」と。学校で札幌大長ナンバンを作っていて、札幌大長ナンバンをテーマに。札幌大長ナンバンって、実が大きいんですけれど、あまり辛くない食べやすいナンバンなんです。それを刻んで三升漬けにしたんですけれど、その三升漬けを改良して冷製パスタにさせていただきました。これ、夏になったら「社カフェ」で販売すると思いますので、もし、お時間ありましたら、「社カフェ」の方に。地下鉄真駒内駅の5分位歩いた所にありますので。みなみの社支援高等学校っていうのは、まだ出来て7年くらいしか経っていない学校で、出来てすぐにコロナになっちゃって、盛り上げていきたいっていう事で私達女性部の方に声が掛かったんです。今年、学習発表会の様なものに呼ばれて行ったんですけれど、生徒さん達は社カフェを中心とした食育活動をやっていて、本当に素晴らしい発表を見せていただきました。

その次は9番目の、札幌市苗穂・本庁地区センターで漬物講座っていうのを、「新聞を見たので、やって欲しい」という事で依頼がありまして、10ページになるんですけれども、この先生が私達女性部の三役の理事さんなんですけれども、この方が講師で、さとらんだの講師もなさっている方なんです。丹羽さんという方で、さとらんどで「ニンジン漬け」とか「ヤーコンの漬物」とか色んなことを教えている方で、この方を中心に漬物講座をしまして、メニューは資料にある感じでやらせていただきまして、参加者の方は写真の右側の方がすごく良い笑顔で、本当に喜んでいただいて。大抵、アンケートを取ると「まあまあ」だとか「まあ、良かった」くらいになるんですけれど、すごく高い評価をいただきまして、私達も「やって良かったね」という感じで帰ってきました。今年も、これに負けず

劣らずの活動をしたいと考えておりますけれども、総会明けてから頑張ります。以上です。

それで、こちら「虹のしずく」の方には色々載っています。こちらの方は準組合員さん向けの広報誌になりますが、後ろの方に「札幌農業の魅力を広めよう！」っていうページが9ページと10ページ。これは、「女性部の本部役員が行って来ました」っていうページなんですけど、「今村農園」さんとか「八剣山キッチン&マルシェ」とか、こういう所に私達が訪ねて行って、そして生産者さんなりのお話を聞いてツアーで帰ってきたという、これを準組合員さんにお知らせして、「近くの方とか、お休みの時は行って見て下さい」という様な広報活動を、広報誌でさせていただいております。以上でございます。

●委員 青年部の課題というか、今後、進めていきたいと思うのは、直売をやっても決まった物しか出せなくて、日持ちしない野菜ばかりなので、できればもっと色んな加工品だとかを増やしていければ一番良いんですけど。

●委員 直売所向けのちょっとした野菜も増やさないと、難しいことは難しいですよ。木田さん達もチーム化して頑張っているじゃないですか。ちょっとバラしたりとか。

●委員 色んな物に手を出していきたいとは思っているんですけど。

●委員 ちなみに、SNSとかは青年部でやっているんですか？

●委員 青年部ではないんですけど、最近、農協のLINEグループみたいなのは。僕はLINEをやっていないんですけども。

●委員 そうじゃなくて、発信用の。例えばインスタとかFacebookとか。

●委員 それは...

●委員 (発信が)ある方が、みんなが管理人になれるので全員なってしまうと、当番制にして1本ずつ(記事を)上げていけば良いんですよ。私、農家さんの管理を10本位やっているんですけど、上がってこない時に書いてあげたりとかして。発信は、農家さんはすごくしているので。(発信)しないと(取組が)埋もれちゃう気はするんですよ。

●委員 何か、(コメント等の反応が)怖い方が先に立つんですよ、ああいうのって。

●委員 いや、怖くないです。無視すれば良いんですよ。

●委員 良い事もあるけれど悪い事もありそうで. . .。

●委員 (文章を) 書かないで写真だけで良いんですよ。私、名寄でピーマンの畑を撮って(発信して)、「ピーマンの花って白いんですね！」って一般の人に(コメントを)書かれて、「そうですよ！」って返事するだけ。知らないことを知るのも一つなので、発信は必要だと思いました。せっかく、こんな良い事をしているんだから。だから、「来てください！」も言えるんですよ。そうじゃないと分からないので。広がっていくと、また次の人に繋がっていくので。

●委員 分かりました。

●委員 この間の「加賀野菜マルシェ」も、拡散して、拡散して、拡散してという感じ恵で頑張りましたけれど。

●委員 「家で作った野菜を売る」というのなんですけど、ウチの一番下の娘の旦那さんの家が東茨戸で農家をやっているんですけど、2年位は庭先販売をやっていたんですよ。ところが、疲れる。多種類作らなければならない。次から次へとお客さんが来たら、無くなったらその分、入れなきゃならないっていうので、1軒でやるのは大変だなと。

●委員 でも、課題がマルシェとか直売をやるなら、(品数が)ちょっと少ないというお話だったので、例えば何がいるか分からないけれど今年、1人1つずつ、ちょっと違う物を時期をずらして作るだけでも、お客さんから見たら3つか4つが増えている気になると思うので、それをちょっと話し合っただらどう？そんなに沢山作ることはないんですよ。私、長沼の農家さんのマルシェを毎週金曜日にやっているんですけど、そこは普通にやっているんですけど、「札幌用に作って」って言って、赤イトウモロコシ200本とか。ちょっと変わったのだけ「札幌で売るために」って種を蒔いたりしているので。

●委員 長沼さんはね、結構色んな物が. . .。

●委員 でも、その人は主に大豆とかトウモロコシとかをやっているんですけど、機会があって一昨年から札幌でマルシェをする様になって、「マルシェ用の野菜を増やすかな」って言って、自分だけですけど去年ちょっと増やして。やはり、体感したんだと思うんですよ。「こういうのが無いと売れない」というのが。なので、せっかくチームだったら、チームのメリット・強みを活かして、1個ずつ増やすだけでも増えると思います。

●委員 頑張ります。有難うございます。

●委員 それだったらもう、「とれたてっこ」じゃなくて「SAPPORO PRIDE」で良いんじゃないですか？と思いますけれど。このロゴも良いし。

●委員 このロゴ、良いですね。これ、女性部も使わせてもらえないかって言っていたんです。

●委員 もう目に入っちゃったし、「SAPPORO PRIDE」で「さっぽろとれたてっこ」をカバー出来ちゃう様な気がして。

●委員 （青年部・女性部からの情報提供資料の表紙のレタスの）この写真も新鮮さが伝わっていいですね。普通、切り口は、すぐに白い液が出てから赤くなるので、見せたがらないですね。それを逆手にとって、わざと切りたてを撮影して、白い液で切りたての鮮度の良さが伝わってきますよね。

●委員 ここが、ボランティアでやってもらうか。ちょっとお金を出すかの違いも誰が見るかによって、仕方がないものを作ってもあまり人が来なくて。やはりキレイだと、みんな手に取ってくれたりするから。

●委員 そうなんですね。

●委員 そこは、無駄なことをするんだったらキッチリした方が良いと思います。すごくキレイな写真。

●委員 良い写真ですね。

●委員 こういう写真を発信していったら、「札幌の野菜って、こんなキレイなのを作っているの？」みたいな感じになると思います。

●札幌市 はい、情報提供、どうも有難うございました。この「虹のしずく」の7ページに、組合長さんがちょっと可愛らしく．．．。

●委員 組合長、広報誌には毎月、出ていましたか？

●委員 最近、よく引っ張り出される。料理教室で。

●札幌市 さとらんどともまた、色々と一緒にやっていければという風に思っていますの

で、宜しくお願いいたします。

●委員 さとらんどでは、女性部でお味噌作りとかで利用させていただいて、やっています。

●札幌市 結構、人気があるという事を聞いていますので、また宜しくお願いいたします。

そうしたら、次の札幌市からの情報提供に移らせていただきます。A3のタテのものなんですけれど、先程から色々と話題に出ていました「たまねぎフェア2023参加者へのアンケート結果等について」をご覧ください。

昨年度の懇話会で、「農業イベント参加者からの意見や要望を紹介してもらいたい」との御意見がございました。

さとらんどでは、年間で大体30程度の各種イベントを開催しておりますが、そのうちJAの青年部・婦人部と連携して行ったイベントで、販売した農産物等に関するアンケートを実施しているのは「たまねぎフェア」のみとなっておりますので、回答結果について簡単にご説明させていただきます。

まず一番左の列の表なんですけれども、札幌市の代表的な農産物とブランドの知名度として4品目示したところ、やはり札幌黄、これが一番認知度が高く53%、次いで大浜みやこ23%、次がサッポロスイカが15%、ポーラスターが約9%という結果となっております。

次は、その下の表で、さとらんど交流館にある直売所「さとらんど市場」の利用について、「いつも利用する」と「ときどき利用する」を合わせて71%と、結構高い数字が出ました。資料の真ん中から下にかけては、さとらんどの図面ですね。あと、各種写真を付けています。

次は、その下の表で、「ファーマーズマーケット」ですね。登録した農業者達が屋外で行う農産物直売について、「いつも利用する」「ときどき利用する」を合わせて49%という結果になっております。合計の割合では「さとらんど市場」よりは低いんですけども、「いつも利用する人の割合」というのを比べると、逆にファーマーズマーケットの方が多くて人気のある取り組みとなっております。これも左下の方に写真を付けております。

次は、右側ですね。イベントに関してですが、真ん中の列の表になりますが、一番下の表で総合的な満足度、これが「とても満足」と「まあ満足」を合わせて89%と非常に高い数字になっております。

次に、右側の列にイベントで販売した農産物等に係る自由意見等の抜粋したものを記載しておりますが、「品揃えが豊富」、「新鮮で安い」や、調理して提供した物に対し「おいしかった」、「豚汁が美味しかった」もありますし、「毎年来たい」等の好評な意見が多くありましたが、一方で赤囲みの様に「品切れが早い」とか、「詰め放題があつという

間に無くなって残念だった」という様な今後の改善点に繋がる意見もございました。

他のイベントでも、アンケートの中で「さとらんど市場」でありますとか、「ファーマーズマーケット」の利用に関する聞き取等を行っていますが、さとらんど市場の利用率が若干低く大体 50%位でした。ファーマーズマーケットの利用率は変わらない状況、これは同じく 50%程度でした。また、意見の傾向も同様で、好評ではあるものの、やはり販売している農産物や詰め放題の品が早く無くなるといった意見がありました。

イベントに関する意見は、以上となります。

続きまして、「さとらんどの再整備」、先程もちょっとお話しさせていただいたんですけども、さとらんどに係る情報提供について、農政部農政課の担当係長の方から説明させていただきます。

●札幌市 農政課で事業推進担当係長をしております。宜しくお願いします。本日は貴重な時間をいただきまして、「サッポロさとらんど」の再整備の取組について、情報提供として説明させていただきます。

資料はですね、お手元にあります青の線の中に白抜きの文字が入っています「サッポロさとらんど（さとらんど及び札幌市農業支援センター）の再整備について」というものになります。

さとらんどはですね、資料の中の赤い部分という形で見ていただければ宜しいかと思うんですが、都市農業を支援する拠点として平成 7 年にオープンしております。野菜の栽培や収穫、農産物の加工、小動物とのふれあい等、農業に関する体験を通じ、市民が農業に対する知識や理解を深める場として、また、炊事場や遊具等の設置により、みどり豊かな憩いの場を提供するという事で市民に親しまれている施設であります。しかし令和 2 年から、老朽化が進んだ中で使用禁止等の物があることから、施設の更新・改修を進めるという事で、機能アップ事業ということで木製遊具、アスレチックですね、それとか S L バス、レンタサイクル等の更新、または、さとらんどセンターにキッズコーナーを設ける、レストランの改修などを行ってきております。

その行った形の中で、令和 5 年度、今年度から指定管理者が昨年度までと替わったという事もありますし、替わった指定管理者が色々なイベントの開催、または木製アスレチック的な部分で、お子さんを連れた親御さん等が来て農業体験施設の利用者が増加しているという様な形になってきております。また、図の中の黄色の部分であります、こちら農業センター、今いる場所になりますが、こちらは圃場の利用により農業者への優良品種に関する情報提供や、新技術の普及・指導、化学肥料や農薬の低減など、栽培支援に取り組む形で色々行ってきておりましたが、社会情勢といいますか、国や道の農業支援体制の強化、また、札幌市の中でも専門の技術を持つ職員の減少、また、補助事業の事務の増加で、農業支援センターが補う役割が変化してきている中で、令和 6 年度末には直営の職員がこちらから居なくなるという様な形になってきております。

そういった中で、開園から28年が経過した現在、再整備にあたって、今までは単なる老朽化施設の更新という様な形で再整備を組んでいたのですが、支援センターの部分もありますし、民間活力の導入や利用者ニーズに合わせた施設の有効活用など、ハード・ソフト両面の見直しが急務になっていることから、今年、農業の付加価値を高める「さっぽろ都市農業」の拠点として活用するために、民間事業者様の方からの色々なご意見を聞くという事で、サウンディング調査を始めさせていただきました。

サウンディング調査とは、どの様なものかといいますと、民間事業者さんの持っている技術・ノウハウを、対話を通じて広く意見やご提案を頂きながら、今後の事業展開に活かしていくというものになります。今回のサウンディング調査、10月～11月にかけて行いましたが、「農業」、「食に関するもの」、「造園業」、「サービス関係業」、「IT等」もあるのですが、12社様・約38名でのオンライン、現場の方のお話を含める中で、「既存施設の有効活用」、また、「市民の農業体験や理解促進の取り組み」、また、「農業支援に対する新たなアイデア」や、「利用者の利便性向上と事業者の収益向上」、「さとらんどの魅力を活かした観光」等の色々なご提案を頂きまして、重複はございますが約138件近く、「こうしたらどうだ」、「あーしたらどうか」という様なご提案を頂いております。

今後の再整備にあたりましては、下の方に想定スケジュールという形で、今現在は「さとらんど、支援センターまで、こうしますよ」と完璧に決めているものはございません。そういった形で今、民間企業様から頂いたもの等を考慮しながら、色々なご意見等を整理していきながら、令和6年位までに基本方針で令和7年に基本計画、令和8年、9年に事業の準備で、新たなる事業実施という事で令和10年度を予定しております。なお、それに併せまして今、現行指定管理者が令和5年度～令和9年度までという形になっていますので、そういった部分の意見を活かしながら、また次の公募という形になります。

正直、情報提供という形で、いま再整備を進めていますということではなく、まだ意見を聞いていますという部分でしかないので、「こうします」「ああします」というのは言えないのですが、そういう動きがありますという事で、情報提供で話をさせていただきました。有難うございました。

●札幌市 はい、ということで札幌市からの情報提供は以上になりますが、これらについて何かご意見等ございますでしょうか。

●委員 さとらんど再整備は良いのですけれども、冬場の利用を考えた時に、近隣に排雪場があったり、夏場も荒れ地や資材置き場などあったり、さとらんど周辺は景観が良くないですね。都市計画全体の問題だと思いますが、農業の拠点施設で児童・生徒など若年者がたくさん来て欲しい場所ですので、もう少し広く周辺環境も含めた計画をご検討を頂きたいです。自分は札幌市の都市計画の委員もやっていたので強く思います。通年で施設の活用をしてもらいたいです、冬場に家族連れで小さなお子さんを連れてきたら、

排雪車がたくさん走っていて結構危険だと思ったりされないか心配です。導線確保も重要です。合わせて、併設する農業支援センターは廃止するということなのですか？センターの機能はどうなるのでしょうか？例えば、土壌分析等の事業は残すのでしょうか？

●札幌市 はい。農業支援センターは、職員は引き上げますけれども、今までやってきた「農業者を支援する」という役割は継続しますし、そういった中で今までやってきた事業の部分も、「これは必要だ」と思うものは継続してやりますし、そこから更に民間さんのアイデアだとか力だとか、そういった部分も視野に入れて更にもっと今の流れに合わせた様な形で充実させていこうというのが狙いになっています。それで、今までは「支援センターは、支援センターだけ」、「さとらんどは、さとらんど」みたいな感じでやっていたんですけど、そこをもっと「一体で何か盛り上げる」というか、そういう様なことが出来ないかなという風に考えています。

●委員 それは賛成です。ここに来るのに、どこから入ったら良いのか、扉が閉まっていたところは入れないとか。（施設等が）バラバラにあるので、1つに集約していただけたら来やすいし。

●委員 新規就農者の支援に対する役割は担っていましたか？研修施設でもあったのですか？

●札幌市 研修施設ではないです。

●札幌市 研修施設ではないですけども、札幌農学校の研修圃場では使っています。ただ、本格的な農業に向けた研修ではないですけども、一般市民向けという事ではあります。やはり一番大きいのは、直接圃場を使って試験ですとか、そういったことが出来る職員というのは、札幌市の方ではもう採用していないという状況もあって、「市職員が直接、圃場全部を使って何か出来るという状況ではない」というところと、やはり新規就農者の支援の業務というのも当然進めてきていまして、そういった「国からの補助事業」ですとか色んなサポートっていうところでの役割っていうのも全く変わらないっていうところと更に増えているっていう状況もありますので、「圃場の業務と併せてそういった新規就農者の支援っていうのを段々やりきれなくなっている状況」もありますので。圃場の業務は切り離して、やらなければいけない「新規就農」ですとか色々な「国からの補助事業」もありますし、「鳥獣被害対策」もウエイトが凄く大きくなってきているところもあって、そういったところに農業の職員を振り向けるっていうところなんです。なので基本、本庁と組織としては一緒、統合する形にはなるのですが、今までやってきている「サトホロの原種苗の育成」ですとか、「土壌診断」ですとか、求められる機能は残す様な形で進められな

いかという様なことで今考えておりますので。何を無くして何を継続して何を新しくやっ
ていくというのは、今リアルに考えているところで、農協さんとも一緒に色々考えて
やっていきたいと思っております。

●委員 札幌市の農業の未来を考えたとき、多品目野菜産地として維持していくためには、
常に新規品目、新品種を試験する場所がどうしても必要だと思います。玉ねぎは連作がで
きると言われますが、その他の品目は連作障害の回避が重要です。そのため、土壌消毒と
か土壌診断に基づいた野菜生産というのはとても大事だと考えます。限られた農地を持続
的に維持するには、土壌診断も土壌消毒も必要ですよ。ハウスも露地もそうですよね。

●委員 そうですね。

●委員 そのへんって、難しい。

●委員 難しいですね。そもそも玉ねぎは本当に連作障害が出ないのですか？もう何十年
も同じ圃場で連作され続けてきたところもあると思いますが。

●委員 一応、出ないとはなっていますけれど、病気は勿論ありますし、段々、獲れなく
なってくる。

●委員 段々、収量がやはり、ある程度しかね．．．。

●委員 だから単品目だけではなく、複数品目での輪作とか色々考えていかないといけな
いですね。

●委員 別なことで宜しいですか？1つ戻って、先程の「たまねぎフェア」でアンケート
があったかと思うのですが、ここで「総合的な満足度が88.7%」というのがあると思うの
ですが、それとこちらの資料4の所の「さとらんどを利用した人の満足度」とは違う調査
になるのですか？

●札幌市 そうです。イベントに限っての調査になります。

●委員 こっちの（資料の）方は、どんな形の調査？

●札幌市 普段から、さとらんどセンターの窓口の所にアンケート用紙が置いていまして、
そこで書いてもらったりだとか、イベントの時とかにもあわせて置いて回答してもらった

りだとか、そういったもののトータルになります。

●委員 違うものだっていうことですね。分かりました。

●委員 その件で言うと、あと、この懇話会だけではなくて、その（イベントの）場にみんな私達を呼んでもらって、取り組みを実際に拝見できたら良かったなと思いました。

●札幌市 宜しいんですか？そういうのも。

●委員 来年はぜひ。

●委員 アナウンスだけはして、それぞれ皆さん、お仕事もあるので、行ける人は行くと。

●札幌市 そうですね。確かに。

●札幌市 色々なイベントのお知らせも皆さんに。

●委員 私は去年、予定があったので行けなかったんですけど、知ってはいましたけれど。

●札幌市 では、こういった部分の情報提供等させていただきます。その他は宜しいでしょうか。そうしたらですね、本日、予定時間をオーバーという形になるくらい、色々ご意見を頂いて本当に有難いと思っております。お時間となりましたので、以上で質疑・意見交換を終わらせていただきます。

●札幌市 続いて、議事の最後となります。次第の2番(4)その他ということで、「懇話会委員の任期」について説明いたします。

委員の任期は、来月の3月31日までという事になっております。皆様には、第3期の委員として懇話会にご協力いただきました。この場をお借りして、厚くお礼申し上げます。有難うございます。

できましたら、皆様には再任をお願いしたいと考えておりますので、その際はまた、どうぞよろしく願いいたします。

任期等について、何かご質問等ございますか？

それでは、これをもちまして、令和5年度第2次さっぽろ都市農業ビジョン推進懇話会を終了いたします。

本日は、お足元が悪いなかお集まりいただきまして、誠にありがとうございました。どうぞ、お気をつけてお帰り下さい。どうも有難うございました。

以 上